

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 平野区  
学校名 大阪市立長原小学校  
学校長名 市場 達朗

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長原小学校では、第6学年 26名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科の調査においては、全国平均を下回る結果が目立った。国語の平均正答率は、61.0%で全国平均の66.8%より5.8ポイント低く、算数は49.0%（全国平均58.0%、-9.0ポイント）、理科は47.0%（全国平均57.1%、-10.1ポイント）と、いずれも大きな差があった。特に記述式問題では差が顕著で、国語は全国平均より18.4ポイント、算数は8.9ポイント、理科は6.7ポイント低い結果となった。これは、思考力や表現力、論理的に説明する力の育成が十分でないことを示している。

児童質問調査では、「自分にはよいところがある」と回答した児童が92.3%に達し、全国平均の86.4%を5.4ポイント上回った。また、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童は96.2%と、全国平均の92.2%より4.0ポイント高い結果となった。これらの数値は、児童が自分の価値を認識し、教師との信頼関係の中で安心して学べていることを示しており、学校全体として心理的安全性が確保された教育環境が整っていることがうかがえる。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

**[国語]** 平均正答率は全国平均を5.8ポイント下回っており、特に「読むこと」に関する設問で大きな課題が見られた。読解力を問う問題では、文章全体の構成や要旨を捉える力が十分に育っておらず、記述式問題では無回答率が高く、書くことへの抵抗感がうかがえる。一方で、「言語文化」や「情報の扱い方」に関する問題では全国平均を上回る結果が出ており、語彙力や図表の読み取りには一定の力があることが分かる。また、「話すこと・聞くこと」に関する設問では全国平均に近い正答率を記録しており、対話的な活動における理解力は安定している。

**[算数]** 平均正答率は全国平均を9.0ポイント下回っており、特に「測定」や「分数の加法」に関する問題で苦戦している様子が見られた。目盛りの読み取りや単位の理解、異分母の分数計算など、抽象的な概念に対する理解が不十分であることが示唆される。また、記述式問題では正答率が低く、式や言葉で説明する力に課題がある。一方で「数と計算」や「変化と関係」に関する問題では全国平均に近い正答率を示しており、計算力や数量関係の理解には一定の成果が見られた。図形の角の大きさに関する問題では全国平均を上回る結果もあり、図形の性質に関する知識は比較的定着していると考えられる。

**[理科]** 平均正答率は全国平均を10.1ポイント下回っており、特に「粒子」や「生命」に関する領域で理解が浅いことが課題となっている。電気の回路や発芽の条件など、実験的な内容に対する知識や考察力が十分に育っていない様子が見られた。記述式問題では無回答率が高く、結果をもとに理由を説明する力に課題がある。一方で「顕微鏡の操作技能」に関する問題では全国平均を上回る正答率を記録しており、観察技能の高さが際立っている。また、「水の体積変化」に関する問題では、全国平均並みの正答率を示しており、概念理解の定着が見られる。

### 質問調査より

児童の自己肯定感や教師との信頼関係は非常に良好であり、心理的安全性が保たれた環境の中で学習に向かっていることがわかる。また、「学校に行くのは楽しい」と答えた児童は80.8%にのぼり、全国平均の76.3%を4.5ポイント上回った。これは、学校生活そのものに対する満足度が高く、児童が日々の学びや人間関係に前向きな姿勢をもっていることを示している。

ICT活用に対する自信も高く、「ICT機器でプレゼン資料を作成できる」と答えた児童が73.1%（全国平均+7.9ポイント）、「ICT機器で情報収集できる」と答えた児童が84.6%（全国平均+6.2ポイント）と、いずれも全国平均を大きく上回る結果となった。これはICTを活用した学習活動が日常的に行われており、児童が自信をもって取り組んでいることを示している。

教科への関心についても、国語・算数・理科のいずれにおいても「好き」「得意」と感じている児童の割合が全国平均を5～8ポイント上回っており、授業内容への興味関心が高いことが明らかになった。

## 今後の取組(アクションプラン)

児童の高い意欲や安心感を土台として、記述力や論理的思考力の育成に重点を置いた授業づくりを進めていく必要がある。

国語・算数・理科など、各教科の学習では「なぜそう考えたか」「どう説明するか」を重視した活動を取り入れ、自分の考えを言語化する力を高められるようにする。単なる正解を求めるのではなく、過程や根拠を大切にする学習を通じて、児童が自分の思考を深め、他者に伝える力を養うことが重要である。探究的な学習（長原タイム）や課題解決型学習（PBL）を通じて、児童が自ら問い合わせ立て、情報を集め、考えを整理し、発表するプロセスを経験することで、思考力・表現力の育成につなげたい。また、図表や資料の読み取りを含む複合的な読解活動を国語・理科で横断的に実施し、情報を整理・統合する力を育てたい。ICTを活用した情報収集・発表活動も継続的に行い、児童の表現力と構造化力を高められるようにする。ICTは単なる道具ではなく、思考を可視化し、他者と共有する手段として活用することで、学びの質のさらなる向上を図る。

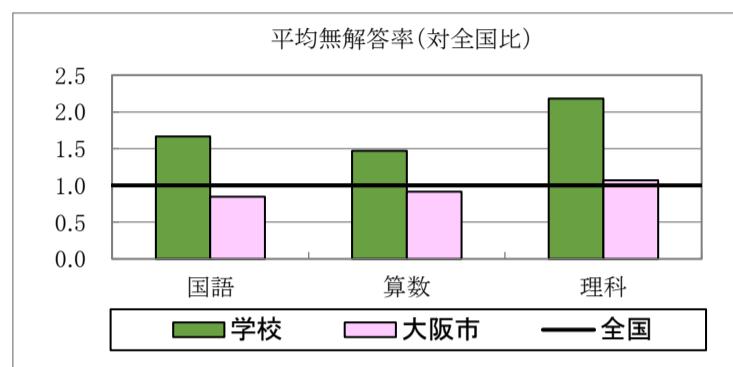
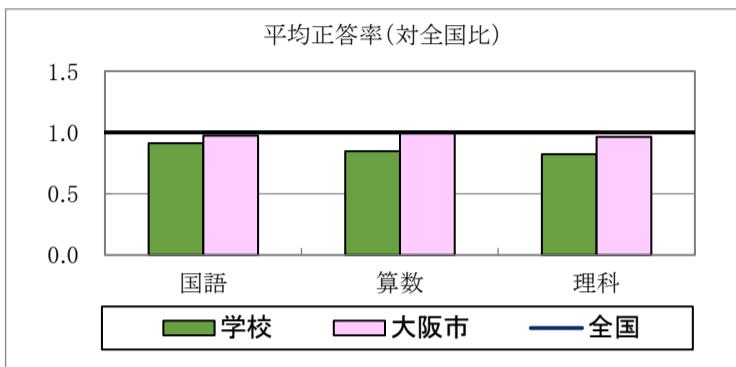
## 【 全体の概要 】

**平均正答率 (%)**

	国語	算数	理科
学校	61	49	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

**平均無解答率 (%)**

	国語	算数	理科
学校	5.5	5.3	6.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



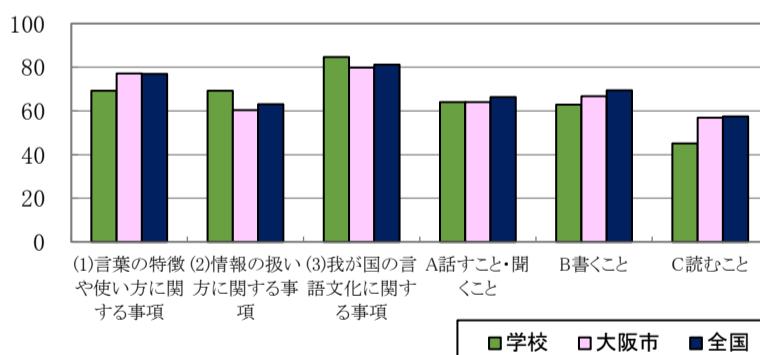
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	69.2	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	69.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	62.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	45.2	56.9	57.5

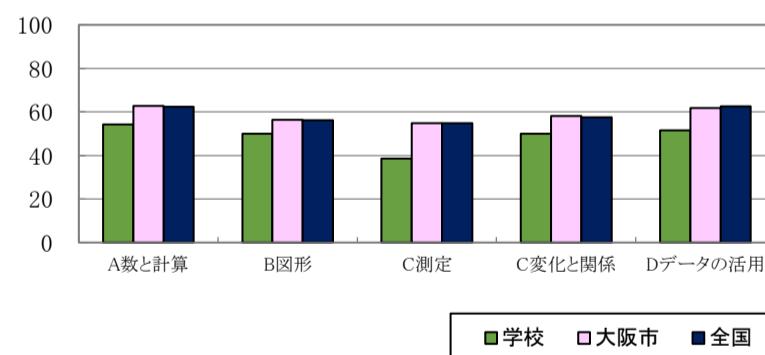
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	54.3	62.7	62.3
B 図形	4	50.0	56.4	56.2
C 測定	2	38.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.0	58.2	57.5
D データの活用	5	51.5	61.9	62.6

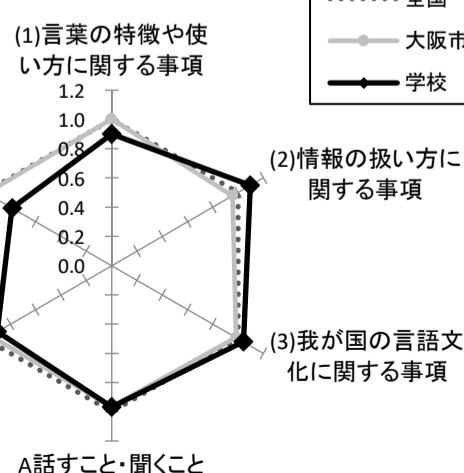
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



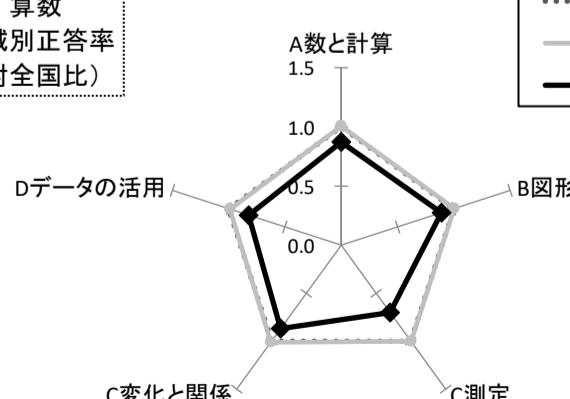
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

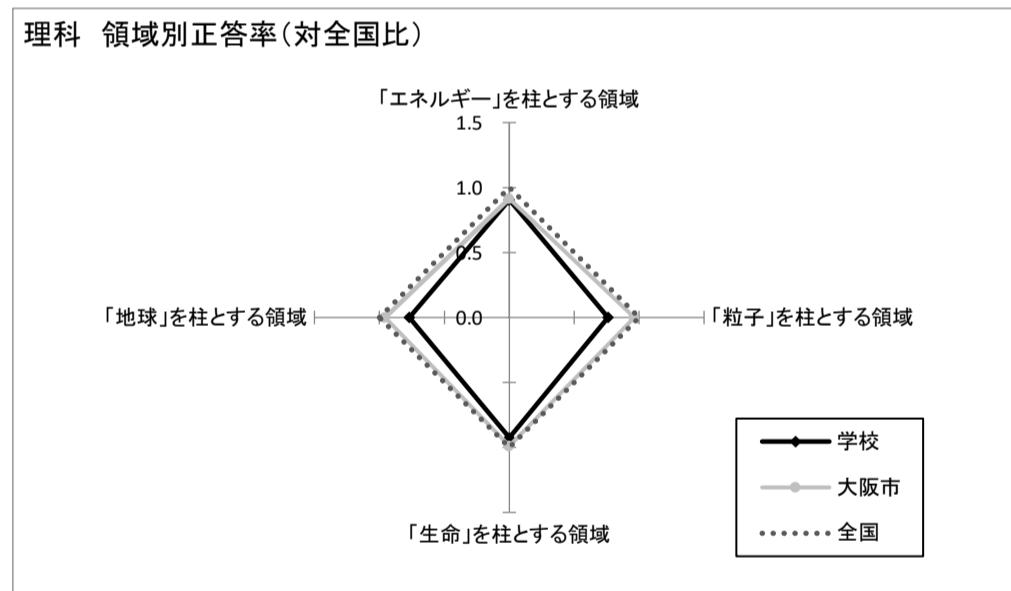
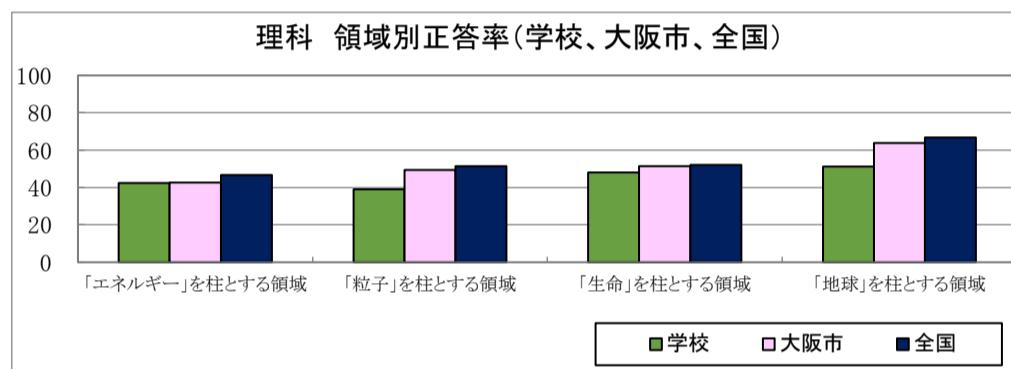


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	42.3	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	39.1	49.5
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	48.1	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	51.3	63.8



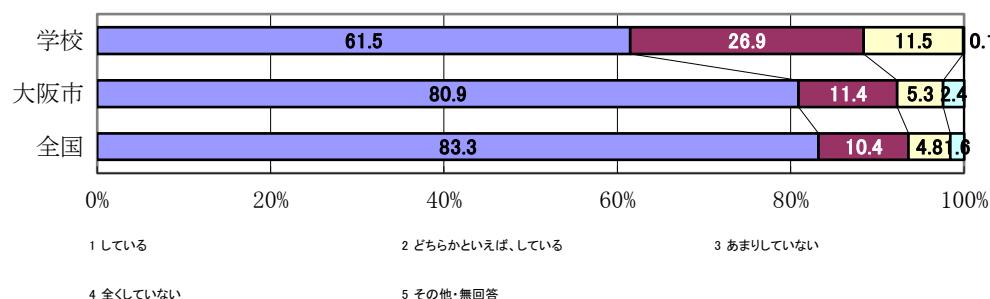
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

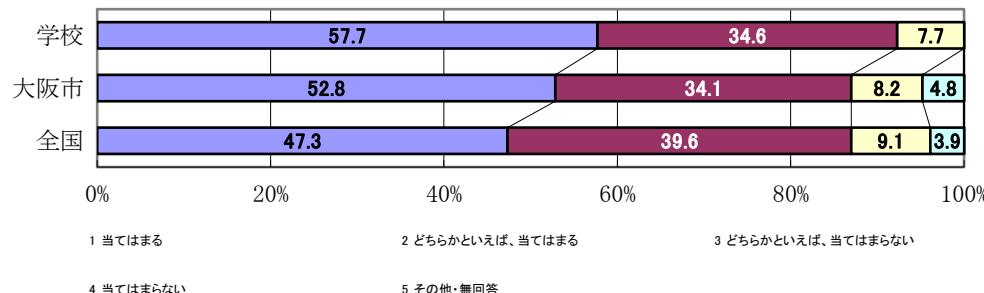
1

朝食を毎日食べていますか、



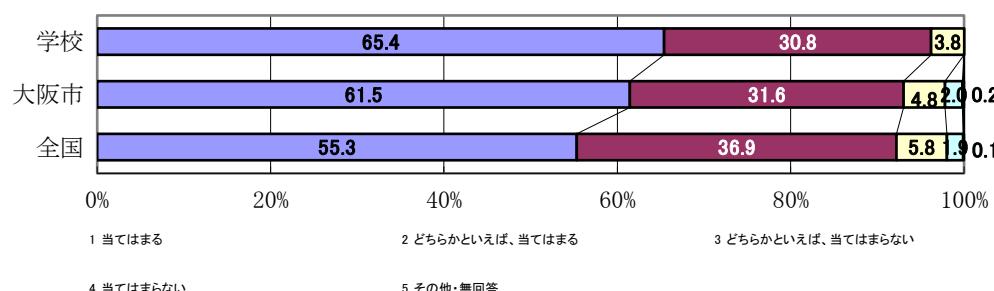
5

自分には、よいところがあると思いますか、



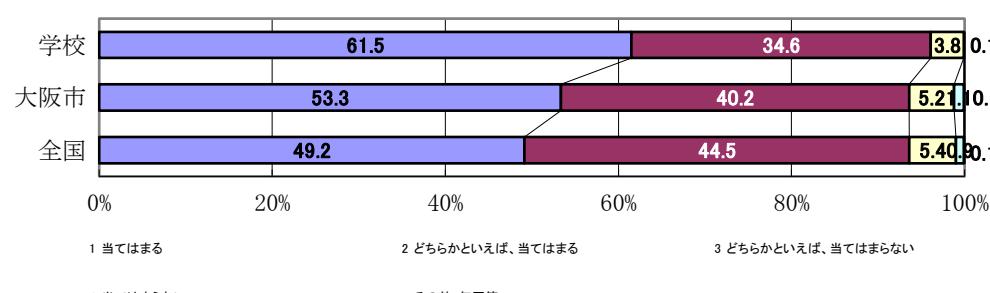
6

先生は、あなたのよいところを認めってくれていると思いますか、



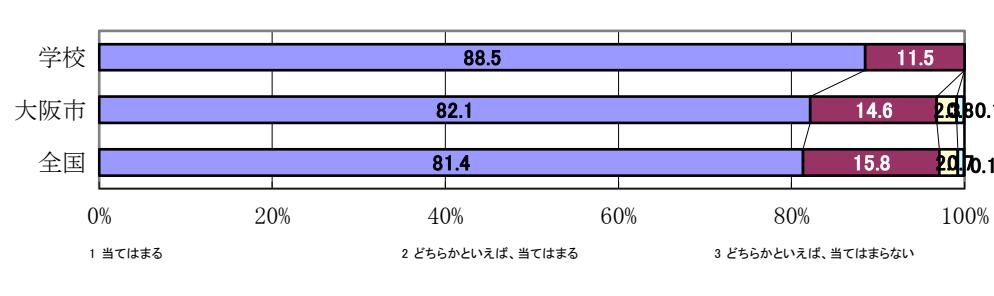
8

人が困っているときは、進んで助けていますか、



9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか、



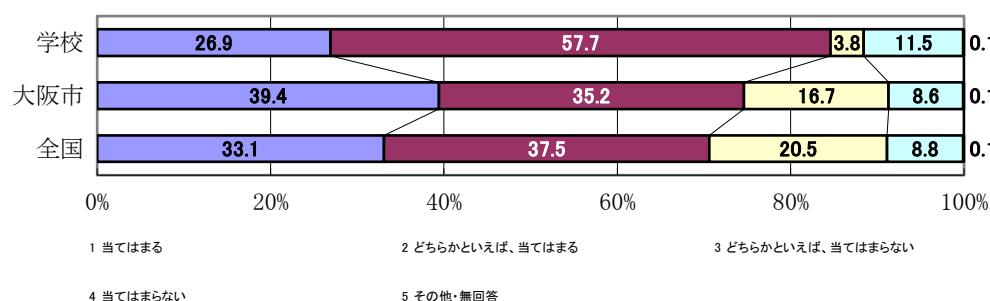
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

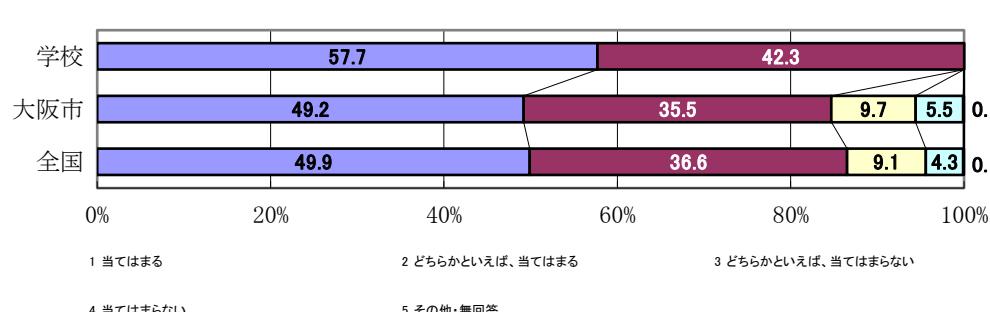
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



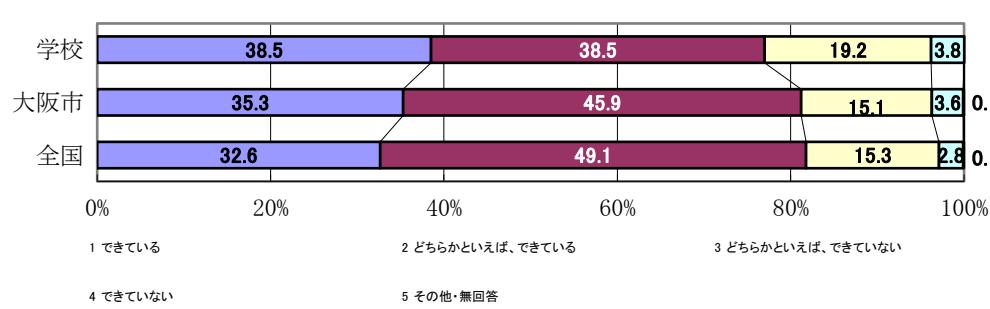
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



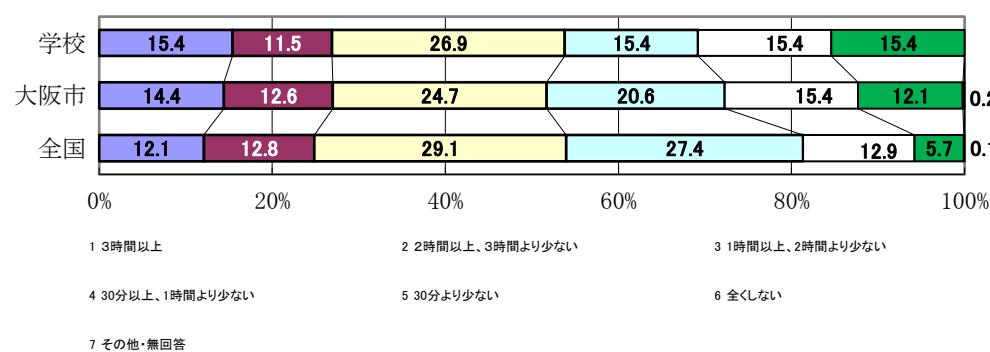
16

分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



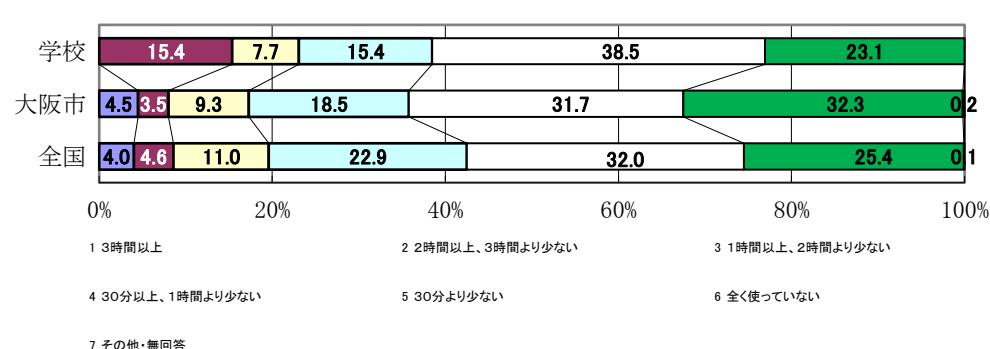
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



18

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



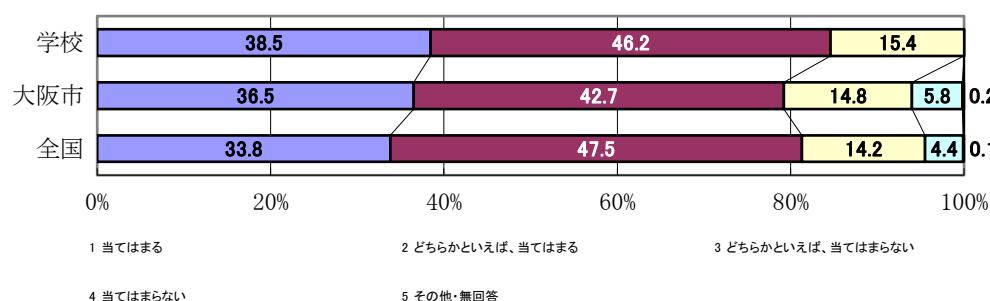
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

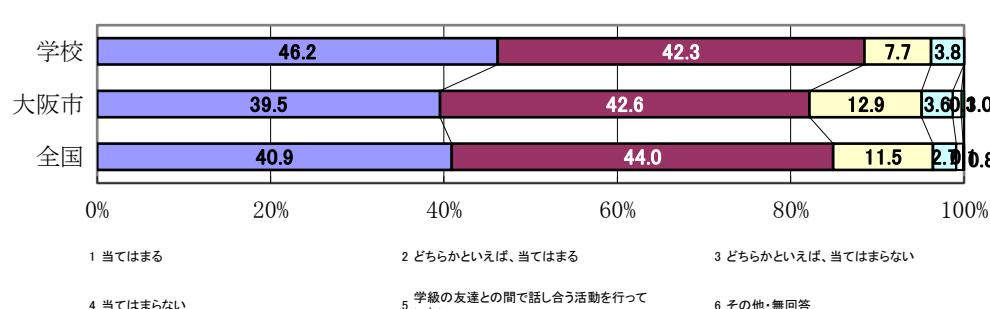
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



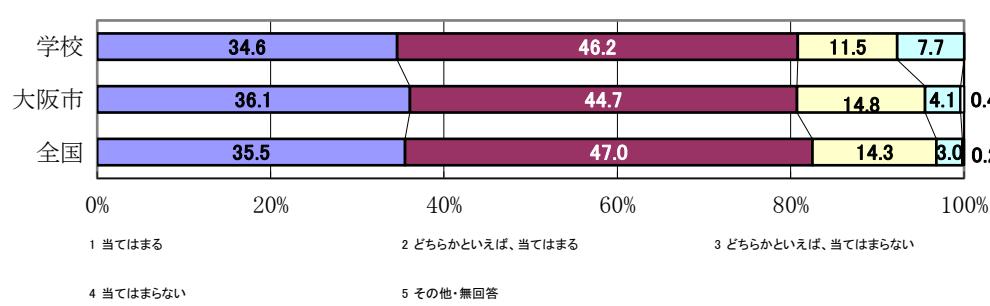
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



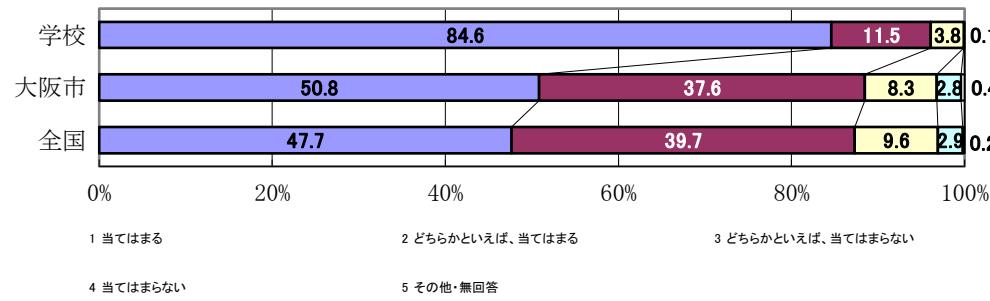
37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



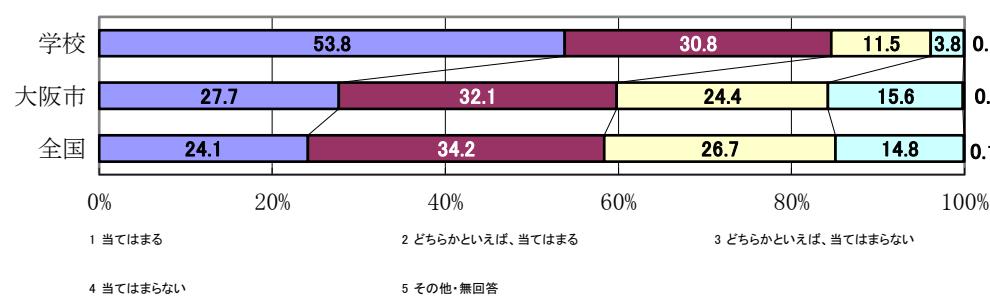
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



45

国語の勉強は好きですか



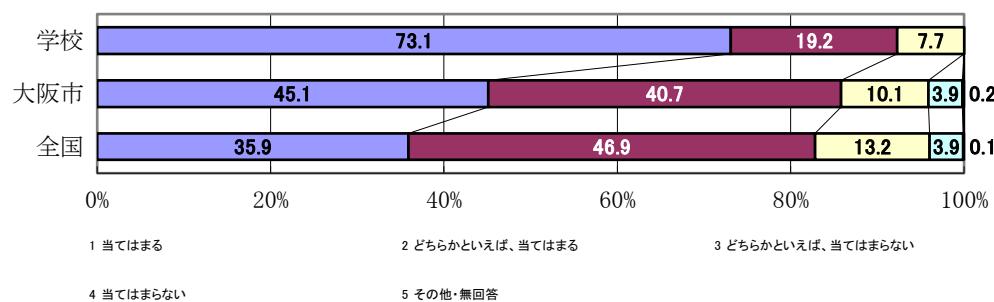
## 児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

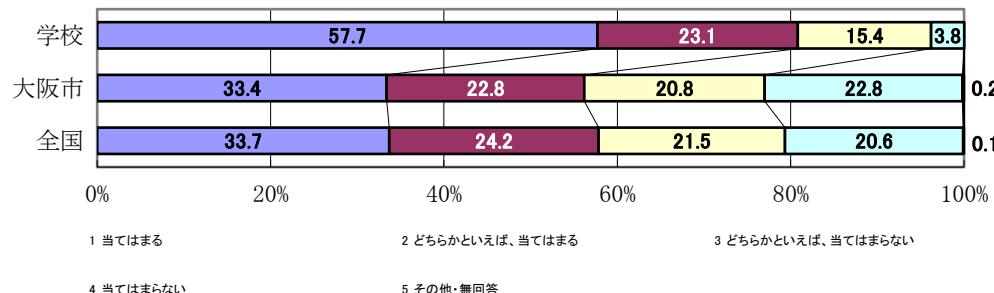
46

国語の授業の内容はよく分かれますか



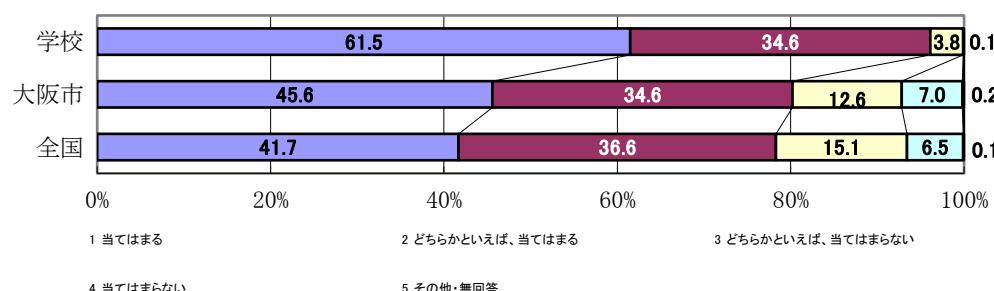
53

算数の勉強は好きですか



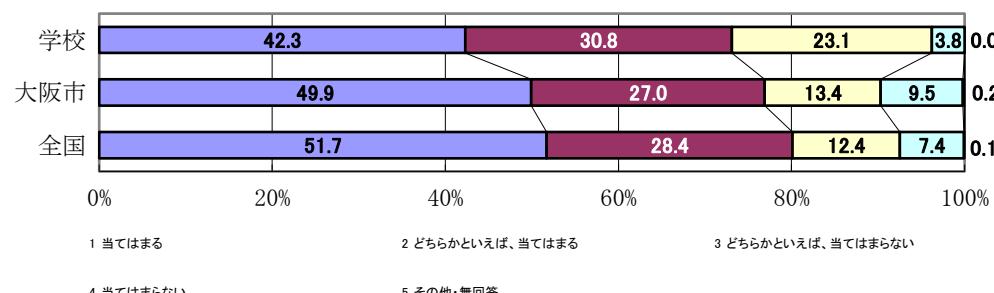
54

算数の授業の内容はよく分かれますか



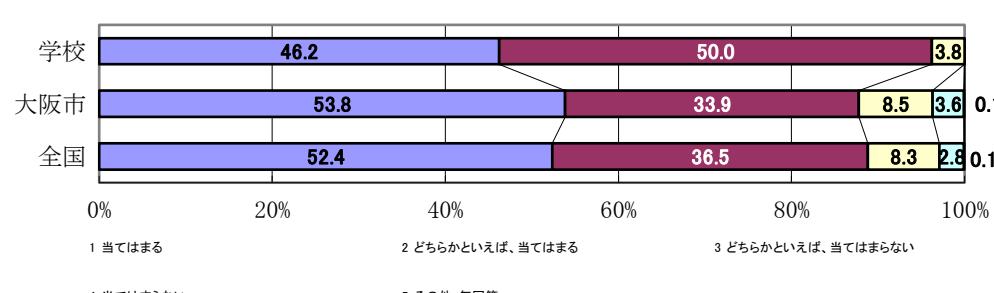
61

理科の勉強は好きですか



62

理科の授業の内容はよく分かれますか



## 学校質問より

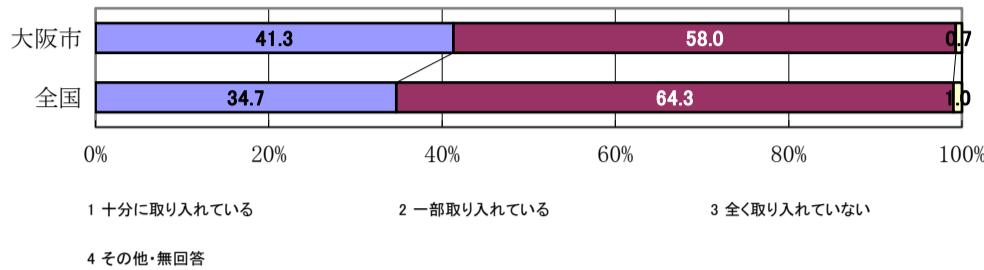
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

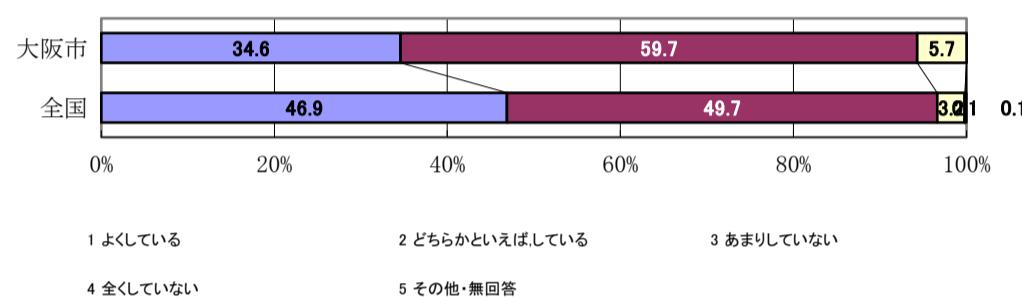
### 学校 「十分に取り入れている」を選択



14

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

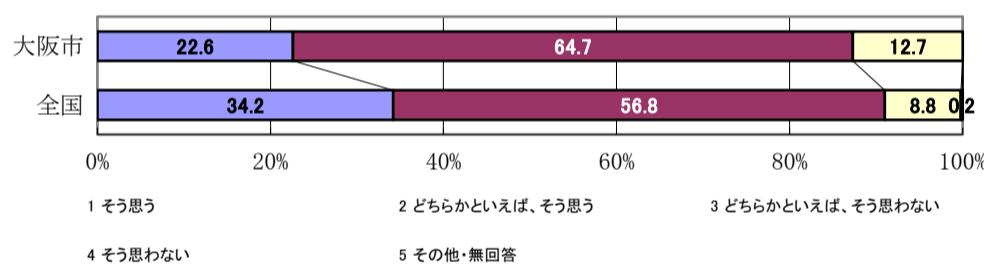
### 学校 「よくしている」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

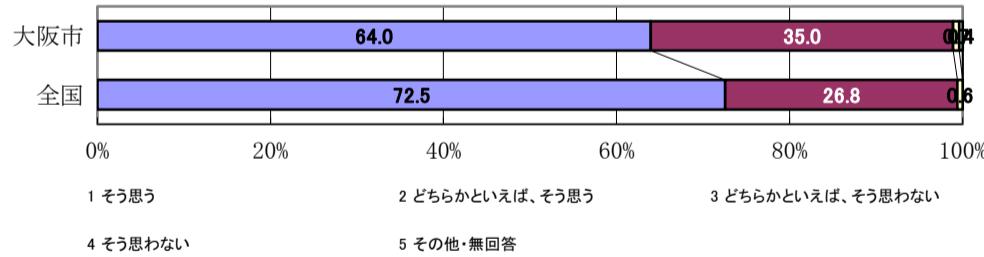
### 学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

### 学校 「そう思う」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

### 学校 「ある」を選択

